

(7) 1月24日(水) 平成13年(2001年) (第三種郵便物認可)

望岳山荘

いっ

—中嶋嶺雄

今日は大学入試セン  
ター試験の第一日。最

初の時間の教科が外国  
語なので、試験が始ま  
ってから、早速、問題  
を取り寄せて見てみ  
た。昨日(一月十九  
日)、町村・文部科学  
大臣に答申した「英語  
指導方法等改善の推進  
に関する懇談会」報告  
でも、大学入試の在り  
方について、リスニン  
グ・テストなどコミュ  
ニケーション能力を問

う方向でかなり突っ込  
んだ改善策を提言して  
いるので、今年のセン  
ター試験の問題も気に  
なっていたのだが、以  
前に比べて大変良い問  
題になってきていると  
私は感じた。

ところで、私自身が  
座長を務めた右の英語  
指導方法改善懇談会の  
報告は、昨年一月下旬  
の中曽根・文部大臣に  
よる諮問以来、実に十  
四回もの密度の濃い会  
合と二回の学校現場見  
学を経て、この間、中  
間報告としての審議経  
過報告を公表し、関係  
諸団体や専門家それに  
広く国民各層の意見を

徴したうえでまとめた  
もので、この種の懇談  
会報告としては例の少  
ないものだといえよ  
う。何人かの外国人の  
委員を含む公開の懇談  
会では、毎回白熱した  
議論が展開され、さま

ざまな意見がぶつかり  
あったが、最終的には  
全員ほぼ一致した方策  
を提示することができ  
た。それは、日本人が  
このままの状態で外国  
語とくに英語の運用能  
力を欠如したままとい  
ると、二十一世紀の日



本は世界に大きく立ち  
遅れるばかりか、アジ  
ア地域でも発信力にき  
わめて乏しい見せかけ  
だけの経済大国に転落  
するのではないかとい  
う危機感が共通項とし  
てあったからだといえ

よう。  
したがって、国民全  
体の英語力を高めるた  
めの小・中・高・大の  
一貫した英語教育とく  
にその指導方法の改善  
と、国際社会で活躍す  
る人材のための高度の  
英語力の養成とを分け

日本の将来と英語

て考えようという大前提  
に立ち、いわゆる英語  
公用語化論の落とし穴  
をも避けて、報告書は  
まとめられている。  
これらの包括的な報  
告内容をマスメディア  
が正確に報じてくれる

ことを願ひ、現にかな  
り良心的な新聞解説も  
あったけれど、ある民  
放のニュースキャスタ  
ーが明らかに報告書の  
中身も読まずに、問題  
を小学校への英語の導  
入のみに矮小化して、  
勝手な見解を語ってい

たのには閉口した。  
それに比べて、私た  
ちが言語と異文化理解  
や国際貢献の重要性、  
そのための目的意識を  
もった外国語学習の必  
要性を強調しているこ  
とに、大変素直に、し  
かも真正面から心えて  
くれたのが、私の母校  
でもある松本深志高校  
の生徒諸君であった。

私は百瀬校長のお招  
きで昨秋、同校二年生  
を対象とする進学講演  
会で「未来の若者に期  
待すること―国際社会  
の変動と日本―」と題  
する講演をさせていた  
だいた。そこでは、こ  
れからの国際社会を担

う若者がどのように異  
文化に接し、どのよう  
に外国語を習得すべき  
か、そのことの重要性  
を私自身の体験を踏  
まえてお話ししたのだ  
が、その感想文が最  
近、担当の平林先生か  
ら届けられた。それら  
を読むと、高い志を持  
った若者たちが、明確  
な動機づけによって英  
語を学ぶことの意味を  
深く認識してくれたこ  
とがよくわかり、私に  
とっては、テレビや新  
聞のどの報道や解説よ  
りも嬉しいことであっ  
た。

(東京外国語大学長  
松本市出身)